

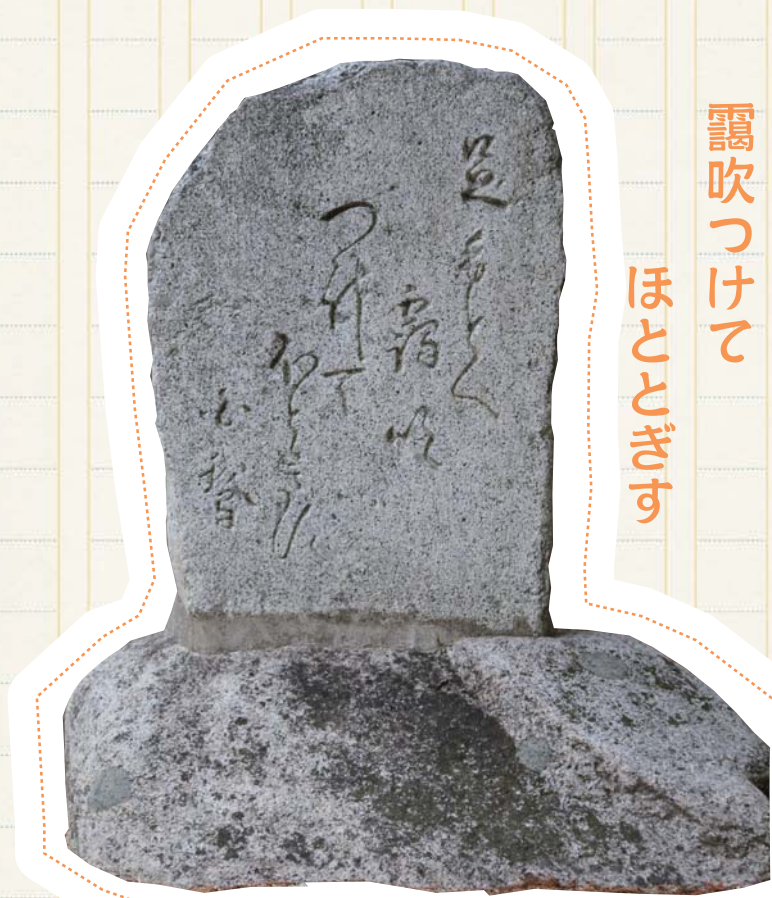
13 長谷川白鷺句碑

池田八幡神社境内

はせがわはくが
足もとへ

靄吹つけて

ほととぎす



池田八幡神社境内の一角に、白鷺の碑があります。碑には「足もとへ靄吹つけてほととぎす」の俳句が刻まれています。この碑は、昭和38年（1963）の下連台の墓地のはずれの藪の下に埋もれかけていたものを見いだされて、現在の位置に移されました。碑のあった墓地の藪のかたわらに「白鷺句碑の跡」の石碑が建てられています。

白鷺は愛知県の人で、俳句の指導に各地をまわっていました。明治10年（1877）1月頃、池田へ来て6月10日に亡くなったと言われています。亡くなるまでの間、池田の俳句に関心ある人々に指導をしたり、一緒に俳句を作っていたりしたと思われます。そのころの池田には、俳句を学びたしなむ仲間や弟子が多くいたと言われています。

六朗は池田で生まれました。5歳のとき、父が事業に失敗して一家は東京へ行きました。幼かった六朗は、現在の大町市八坂の叔母の家にあずけられ、13歳まで過ごしました。その後引き取られ、成長して早稲田大学で学び、26歳のとき雑誌『少女の友』へ「鏡村」として童謡「てるてる坊主」を発表し、中山晋平の作曲で、広く歌われるようになりました。文学者としての広い活動で、多くの作品を残しています。「てるてる坊主」は昼になると、メロディが町中に響き渡ります。池田八幡神社境内には、昭和38年（1963）に童謡碑が建てられ、同57年（1982）には、浅原六朗文学記念館が建てられました。町では、「てるてる坊主童謡まつり」として、てるてる坊主の作品を募集して飾る「てるてる坊主アート展」が年1回開かれています。なお、松本の城山公園にも「てるてる坊主」の碑が建てられています。

14 浅原六朗 童謡碑

池田八幡神社境内

あさはらろくろう どうよう

てるてるぼうず てるぼうず

あしたてんきにしておくれ

いつかの夢のそらのよに

はれたら金のすずあげよ

てるてる坊主 てるぼうず

あしたてんきにしておくれ

わたしのねがいをきいたなら

あまいおさけをたんとのましょ

てるてるぼうず てるぼうず

あしたてんきにしておくれ

それでもくもってないでたら

そなたのくびをちよんときるぞ



六朗は池田で生まれました。5歳のとき、父が事業に失敗して一家は東京へ行きました。幼かった六朗は、現在の大町市八坂の叔母の家にあずけられ、13歳まで過ごしました。その後引き取られ、成長して早稲田大学で学び、26歳のとき雑誌『少女の友』へ「鏡村」として童謡「てるてる坊主」を発表し、中山晋平の作曲で、広く歌われるようになりました。文学者としての広い活動で、多くの作品を残しています。「てるてる坊主」は昼になると、メロディが町中に響き渡ります。池田八幡神社境内には、昭和38年（1963）に童謡碑が建てられ、同57年（1982）には、浅原六朗文学記念館が建てられました。町では、「てるてる坊主童謡まつり」として、てるてる坊主の作品を募集して飾る「てるてる坊主アート展」が年1回開かれています。なお、松本の城山公園にも「てるてる坊主」の碑が建てられています。